

現場訪問 ●名古屋市ヤング・ドライバーズ・クリニックin鈴鹿

若年層のドライバーが体験を通じて安全運転意識を身につけるための機会

7月24日、鈴鹿サーキット交通安全教育センターで、名古屋市が主催する「ヤング・ドライバーズ・クリニックin鈴鹿」(以下、クリニック)が開催された。

この日は、市の広報紙などを通じて募集した名古屋在住の若者(18〜29歳)を中心に26名が参加した。

名古屋市のクリニックを実施する背景を同市市民経済局地域安全推進課主査の山本道子さんは次のように話す。「私たちは市民の皆さんへの交通安全教育・啓発を担っていますが、教育の場は園・学校や地域が中心です。そのため、大学生や就業している若者が参加できる機会が少ないという現状があります。そうした方々の安全教育の機会として、夏休み中の日曜日に、このクリニックを実施しました。危険な状況を招かない運転が安全運転の基本であることを学んでもらうことが目的です」。



「運転習慣チェック」では、測定された客観的データをもとに自分自身の運転のクセを受講者に気づいてもらう



運転する前に最低限は点検してほしいポイントをインストラクターが説明

らスタート。オリエンテーションでは受講者が、「ペーパードライバーだけど頑張りたい」「免許を取り立てなので運転技術を高めたい」「公道ではできないことを数多く体験したい」など、各自の意気込みを述べた。

最初に、日常点検のポイント、正しい運転姿勢をインストラクターが説明していく。その後、トレーニングコースで、受講者一人ひとりの「運転習慣チェック」を行う。自分の運転に対する自己評価を評価表に記載。受講者はドライバーの運転状況を測定する機器を搭載したクルマで指定されたコースを走行。走行後、印刷された測定データをもとにインストラクターと、自己評価との違いを検証し、より安全な運転行動への動機づけを行う。



悪条件の路面を再現したスキップコースでの走行。受講者は、前輪駆動と後輪駆動のクルマで、すべりやすい路面でのカーブを走行し、駆動輪の違いによる挙動の特性を体験した。この他、40km/hと60km/hから目標位置にフルブレーキングで停止するというトレーニングも行われた。最後に、F1でも使用される国際レーシングコースをインストラクターの先導で体験走行し、クリニックは午後7時半に終了した。

山本さんは「クルマの限界や運転技術などを、プロの指導により体験を通じて実践的に身につけることができるので、たいへん効果的だと思います。今後、こうした若年層ドライバーへの教育を実施していきたい」と講習の感想を語った。



鈴鹿サーキット国際レーシングコースでの体験走行

TOPICS

1 熊本県と宮崎県の指導者の方々が相互の指導方法について意見を交換

8月25、26日、熊本県人吉市にて「熊本県交通安全教育講習員・宮崎県交通安全指導員情報交換会」が開催された。これは、本田技研工業(株)安全運転普及本部熊本普及ブロックが主催したもので、熊本県および宮崎県で活躍している交通安全の指導者の方々に情報交換ができる場を提供し、指導方法の



情報交換会には熊本県と宮崎県から37名が参加

相互確認や意見交換を通じて、さらなる交通安全指導レベル向上に協力することがねらいである。情報交換会には、熊本県交通安全教育講習員は7地区から13名、宮崎県交通安全指導員は12地区から24名が参加した。地区ごとに、日頃の交通安全教室で実践している指導方法を実演していくという形で、情報交換会は進められた。子どもにも交通ルールをわかりやすく伝えるオリジナルの人形劇やクイズ、ホンダの交通安全教育プログラム「あやとりい」をアレンジした指導方法などが発表された(高齢者向けについては3面参照)。休憩時間には、発表で活用したツール(教材)についての情報交換が行われるなど、参加者からは「自分の県以外の指導方法は知ることができなかったので、良い機会になった」「自分たちでは考えつかなかったことなど、たくさんありレベルアップできると思いました」という声が聞かれた。閉会式では、本田技研工業(株)安全運転普及本部の千葉英雄事務局長が「皆

2 東京都のホンダ四輪販売会社が合同で交通安全街頭活動を実施

ホンダでは毎年、「秋の全国交通安全運動」(主催：内閣府ほか)にあわせて、全国の販売会社(二輪・四輪)、ホンダ事業所及び関係会社のオールホンダで、秋のセーフティキャンペーン(期間：9月1日〜30日)を開催している。キャンペーン期間中の9月23日〜25日の3日間、東京都のホンダ四輪販売会社合同の取組みとして、東京都内全域約110店舗の販売店スタッフ(延べ約660名)が、各販売店の最寄りの交差点や横断歩道において交通安全街頭活動を実施した。



主催した東京都ホンダ協会会長代行の加藤和夫さんは、「モビリティを提供する販売会社にとって、お客様や地域の安全に貢献することは当然の責務だと考えています。今回はたった3日間ではありますが、各地区の交通安全協会と連携し、地域の安全を一緒に守るという取組みの第一歩を踏み出すことができました」と活動の意義を語る。

街頭に立った販売店スタッフ(ホンダカーズ東京西福生店)からは、「朝のご挨拶をすることで、地域の方と交流が持てて有意義だった」「自然と笑顔になっっている自分があった。今後も定期的に行いたい」と、地域の方々と触れ合う喜びを感じる感想が多く聞かれた。また、「信号が変わる速度が早く高齢者の方々が心配」「子どもが多い交差点なのに、スピードを落とさず進入してくる」など、歩行者目線からのクルマの危険性や横断歩道の重要性を感ずる声も多かった。「交通安全活動を通して、地域との絆づくりやスタッフの成長も望める。地域への社会貢献という大それた建前ではなく、これが販売会社としての本来あるべき姿だと改めて実感しました。今後も引き続き、活動を充実させていきたいと思



販売会社と交通安全協会のスタッフが一緒に交通安全街頭活動を実施

※ Honda 四輪販売会社各社については9月10日から開始